

『信頼と安心の年金改革』

高山憲之著（一橋大学経済研究所教授）



東洋経済新報社 1575円

年金改革の基本は、600兆円に達する過去債務への対処である。これは銀行の不良債権処理と同じバランスシート問題である。また、年金制度への信頼回復の基本は払った年金保険料が将来の給付に反映されること（負担と給付に関する世代間格差の是正）であるとの著者の主張は明快である。しかし、これらの主要な問題は、厚生労働省の年金部会では、ともに議論すらされていない。

◎ 評者 八代尚宏（日本経済研究センター理事長）
**バランスシートから見た
 年金改革論**

来、の保険料収入や国庫負担とはば均衡しており、問題は積立金等を考慮しても、なお残される膨大な過去債務の処理である。この過去債務を、減少する一

は、厚生年金の受給権に見合った支払い債務を、すでに発生した過去債務とこれから生じる将来債務とに分けることにある。このうち将来債務に関しては将来の将来世代に負担させる厚生労働省案では、保険料のさらなる引き上げが必要とされ、それが世代間格差を生み、年金不信の基本要因となる。これは事実上の任意加入制度である国民年金の未納率の上昇に顕著に見られるが、厚生年金でも未加入事業所の増加等、新たな空洞化が生じている。このため、すでに年金を受給している層についても何らかの給付調整が不可欠というのが、著者の結論である。

等、新たな空洞化が生じている。このため、すでに年金を受給している層についても何らかの給付調整が不可欠というのが、著者の結論である。

『100年企業の研究』

半田純一著（マネジメント・コンサルタント）



東洋経済新報社 2520円

企業改革は構造的な問題であり、短期の景気循環によつてその必要性がなくなるものではない。マネジメント・

景気が少し持ち直してくると、それほど問題にされた構造

改革、そして企業改革の熱気は失われたようにみえる。しかし

コンサルタントとして16年間、二十数社のクライアントにかか

本書の論理は「賦課方式の公的年金では（積立方式と異なり）過去債務を問題視する必要はない」と強弁する厚生労働省と対照的である。この結果、1999年の年金改正時には公表された厚生年金のバランスシートの最新版は未だ公開されておらず、現在時点での債務はいっそう拡大しているはずである。こうした年金行政の「退化」こそ国会で追及すべきである。

本書の明快な内容に関する若干の疑問は、「積立方式への移行は二重の負担」という厚生労働省と同じ論理を主張されていることである。すでに巨額の過去債務がある以上、誰かが「二

重の負担」を負わざるを得ないことは、賦課方式のままでも変わりはない。仮に不良債権処理と同様に、給付債務の削減という形をとれば、それは受給者の「二重の負担」でのバランスシートの均衡化であると言えないだろうか。また、完全な積立方式化論ではなく、賦課方式の基礎年金と組み合わせた形で、報酬比例年金を民間の積立方式で運営する方式へのコメントが欲しかった。

世界の年金改革の動向にも詳細な解説があり、年金一元化や保険料未納問題で脇道に逸れている年金論議の本質を見極めるためには必読の内容と言える。

おすすめミステリ
**徳川使節団訪米の陰で
 奇怪な殺人がまたひとつ**

戸松淳矩「剣と薔薇の夏」

（東京創元社、2940円）

は、豪華絢爛の一大歴史パノラマだ。精緻に再現された時代風俗が圧倒的である。時間をかけて描きこまれ、熟成された作品世界の備える緊密さが長大なページの隅々までい



野崎 六助
 （作家・評論家）

きわたっている。

時は19世紀なかば、徳川幕府使節団の訪問にわくニユーヨーク。読者は当然、われわれの祖先のラスト・サムライたちがいかにして「文明の衝突」を体験したかという苦難の物語を予想するだろう。と